

ベタニヤホームだより



社会福祉法人 **ベタニヤホーム**
〒130-0022 東京都墨田区江東橋5-4-1
電話 03 (3631) 0 4 4 4
FAX 03 (6659) 6 6 7 2
発行責任者 網 春子

2022年冬号 **第140号**

令和3年度ベタニヤホーム・

クリスマス礼拝

「神の愛の奇跡」

ルカ福音書第2章8〜20節

日本福音ルーテル小岩教会

牧師 内藤 文字

(ベタニヤホーム評議員)



私たちはどこからやって来たのでしょうか。お母さんのお腹からはわかっていませんが、…自分を含め、生きとし生けるもの・森羅万象、やって来たところ、その根源を知りたいのは、同じです。もちろん、そんなことより、生きることには必死で「根源なんて」考えるも及ばない…と思う時もあります。命の神秘は人にとって、「私はどこからやって来たのか」という問いですね。

人間は命を与えられ、母親の胎内で、約9ヶ月(37〜39週)経つと、生まれてきます。予定日と言いつのがあります。

それを過ぎると「羊水」が汚れてくるので、なかなか生まれてこない時は、何らかの処置、たとえば「帝王切開」などで、あまり遅くならないうちに取り出すのです。つまり決められた時がある。自然の摂理ですね。

動物はどうでしょう。ウサギは1ヶ月、ハムスターは15日、猫と犬はだいたい2ヶ月、母親のお腹に出てくる、生まれてくるのです。そして、面白いことに、お腹にいる時間が長ければ長い程、「自立」する、つまり「親離れ」する時間もかかる。短い時は、早く親離れして独立するので。興味深いですね。人間は、約9ヶ月ですから、親からの愛情



画/こひつじ保育園・室岡 和子

を一杯受け、手をかけてやっと育つのですね。今日は「クリスマス」を祝いますが、「クリスマス」は、ある一人の方のお誕生を祝う時です。約2000年前に私たちと同じ人間として、神の子でありながら、人としての体を持ち、人として、私たちと同じ、喜びと悲しみを感じて生きてくださった「イエスさま」です。

数年前、友人がクリスマスカードをくれました。「へその緒のついた赤ちゃんイエスさま」の絵が描いてありました。本当に本当に、「神にして人とされた」イエスさまは、マリアお母さんとヘソの緒で繋がっておられた！となんだか、感謝しました。

私たちのイエス・キリストの誕生の次第七、まさに神秘に満ちています。聖書



ご協力ありがとうございました ～令和3年度クリスマス献金報告～

今年度もクリスマス献金に多額のご厚志をお寄せいただき、心より感謝申し上げます。

献金のお贈り先は下記のとおり、それぞれ令和4年1月12日付でお贈りさせていただきました。

〈各施設等献金額〉

・母子生活支援施設ベタニヤホーム	13,900 円
・菊川保育園	180,308 円
・富士見保育園	124,146 円
・こひつじ保育園	163,141 円
・法人本部	5,600 円
合 計	487,095 円

〈贈呈先送金額〉

・特定非営利活動法人チャイルド・ファンド・ジャパン	144,000 円
・ほしくずの会	85,774 円
・一般社団法人わかちあいプロジェクト	85,774 円
・ルーテル学院大学・日本ルーテル神学校後援会	85,773 円
・一般財団法人 J E L A	85,774 円
合 計	487,095 円

の福音書には、その誕生の次第が書き残されていません。今日、選ばれたルカによる福音書では、まず最初にイエスさまの誕生を知らせたのは、天使が「羊飼いに知らせたと書いています。当時、羊飼いはどちらかと言えば、身分の低い存在でした。羊飼いの仕事は過酷です。羊を夜通し番をして狼や泥棒から守ります。主の天使は「恐れることはないから、布にくるまって飼葉桶に眠る乳飲み子を見に行きなさい。」と告げます。神様のみつけのうちにながされ、導かれ、行ってみる羊飼いたち。そこで、「救い主の誕生」という神様の計画が示され、成就していくのです。

皆さんも本日、主のお誕生の次第を知りました。これは、真実です。そして、この方は、信じるもの

全ての人に「救い」を与える方。その生涯は、聖書に書かれています。徹頭徹尾「神であり人」として、私たちと同じ「苦難や悲しみ、誘惑、そして時には喜びも」経験された。人が何から救われ、解放されなければならぬかを自ら生きられた。そして、約33年の生涯の最後に、神の計画であった「罪の赦しの十字架」につけられ、亡くなりますが、3日目に復活し、弟子達に現れました。そして、その後、天に召され、今は「聖霊」を私たちに注ぎ、守り導いてくださっているのです。

イエス・キリストのその生涯は、聖書に記されています。その生まれてきた次第、生涯、残した言葉、十字架に着かれたその道、その後の復活、天に昇った昇天の出来事。天から降りてきた聖霊の働き。私は高校生の時に、初めて聖書で読みました。驚きました！「神は愛である」と言いつみ言葉がありますが、



本当にイエスさまの「愛の生涯」を読む事が出来たのです。こんな、厳しい、人と人が憎しみあつたり裏切りあつたりする世の中に。私たちと同じ人として生き、歩んだイエスさまの生涯ですが、まさに「神の言葉が人間の肉体をとって、生まれてくださり、私たちが困難にあるときに、その愛の生涯を通して、導いてくださる」のです。

クリスマスソングとしてみんなに歌われる「赤鼻のトナカイ」。一度は歌ったことがあるでしょう。「まっかなお鼻のトナカイさんはいつもみんなの笑いもの」鼻が赤くて、馬鹿にされて笑われていたトナカイさん。でもクリスマスの日にサンタのおじさんは言いました。「暗い夜道はピカピカのお前の鼻が役にたつのださー」笑われていた鼻こそ、サンタさんは喜んで用いてくれた。「いつも泣いてたトナカイさんは今宵こそはと喜びました。」私たちには恥ずかしい、弱いところがあっても、神様はそれを用いてくださる。サンタさんの愛情でトナカイはもう泣かなくなりました。

私たち、ひとりひとりをよくご存じの神様は、私たちが愛し、導いてくださる。感謝して主とともに参りましょう。

法人創立100周年に向けて 「温故知新」

文／社会福祉法人ベタニヤホーム 理事長 綱 春子

ベタニヤホームの100年前の昔のことを訪ね求めて、先達の実践に学び、今を生きる私たちが、未来を拓く社会福祉事業を見据えて行きたいと願ひ書かせていただきます。

母子救済の責任者として、キリスト教社会福祉の新しい在り方の道筋を示し、日本の社会福祉事業の発展に貢献したエーネ・パウラスは、どのような方だったのでしょうか。前号でルーツの要約を記述しましたが、数回に分けてベタニヤホームのあゆみについて職員や利用者の目線で、その働きやエピソードを皆様と共有したいと思います。

エーネは28歳の時、1919年（大正8年）に来日しました。1921年宣教師として佐賀県小城町ルーテル教会の宣教に始まり、1922年には熊本

の慈愛園で姉のモード・パウラス宣教師に協力し、乳児院や児童養護施設を創設しました。（1923年（大正12年）9月1

日、関東大震災で罹災した母子救済のために、当時の内務省の委託を受け麻布のスペイン公使館敷地での救護事業に始まり、1924年（大正13年）に本所区柳原（現墨田区江東橋）に移転し、母



菊川幼稚園の先生方（昭和12年）
前列中央がエーネ・パウラス師

子寮及び幼稚園を創設したことは前号でも記述されています。こうした救済活動に対し、アメリカのルーテル教会から2000ドルの義援金が送られたとのこと。1930年からは、エーネ・パウラスがベタニヤホームの責任者となり、社会福祉事業としてキリストの愛を実証していきました。これが「ベタニヤホーム」（母子生活支援施設及び菊川保育園）の前身です。70歳で宣教師を引退しアメリカへ帰国するまで、神の愛の業を精力的に働き続け、偉業を成し遂げたエーネ・パウラス師はどのような家庭でどのように育てられたのでしょうか。なぜ日本の宣教師になったのでしょうか。

エーネは1891年2月25日、アメリカ合衆国ノースカロライナ州で一男八女の9人きょうだいの六女として生まれました。家は貧しい農家で農耕、果樹園、家畜の飼育を行っていました。両親は信仰のあついクリスチャンであったので幼いころから日曜学校に通っていました。父は彼女が8歳のとき病死。一家は母子家庭となり貧乏の生活となりました。健全な母は農業の傍ら副業をしながらわずかな収益を得て9人の子どもたちを育てたといえます。どんなに忙しい時でも日曜日には教会の礼拝に、一切の仕事を休み家族みんなで出かけました。エーネは幼い時から周りの人に優しく、家の近くに足が不自由で歩けない人がいて、生活は貧しくとも毎日曜日、母が用意したパンやクッキー等をもっていくことを喜んで行きました。母は経済的困難な中にも、東洋伝道のために貯金箱に貯金することを心がけ、子どもたちも畑の仕事を手伝い、得たお金を貯金しました。母は世界の宣教をエキシメニカルな広い

視野を持っていました。

母は9人の子どもたち全員を大学に通わせ、卒業させることが出来ました。在学中の借入金は、子どもたちが皆卒業後にそれぞれで返済しました。エーネは郷里のレイノア・ライン大学を卒業後、ニューヨークのコロンビア大学で児童教育を専攻し、社会福祉事業の研究を重ねました。その後、聖書神学校及びニューヨークのユニオン神学校で聖書を学びました。この間、教会の日曜学校、病院の看護事業、赤十字事業、孤児救済事業、移民共済事業、小学校教師などあらゆる方面の活動を続け、ついに、1919年海外伝道の任命を受けるに至りました。エーネはアフリカ伝道やインド伝道を希望していましたが、モードと共に日本へ派遣されました。このようにして希望していたことは違わなかったのです。

次回3回目は、就任から第2次世界大戦が勃発し余儀なくアメリカへ帰国するまでの間、神と人に仕え、隣人を愛する「理念を示し、ベタニヤホームの利用者や弱い立場の人に寄り添い、地域へ向けて活動を広めていったエーネ・パウラス師及び協力した職員や利用者の共に生きたエピソード等をお届けしたいと思います。次号もお楽しみに。



本所母子寮と菊川幼稚園（昭和16年）

母子生活支援施設ベタニヤホーム

●どこに行こうかな？●

母子生活支援施設ベタニヤホームでは、11月27日に施設行事である母子ハイクを行いました。新型コロナウイルス感染症予防のため全体で集まらず、グループに分かれ時間帯を分散し、行いました。新型コロナウイルス感染症が流行する前は、例年貸し切りバスでの遠足でしたが、今年は、来年の母子ハイク候補であるマザー牧場と鴨川シーワールドのどちらに行きたいかを投票で決めるための行事としました。職員が実際に現地に行って撮影してきた映像を見て、各グループで話し合いを行ったり、多数決やじゃんけんなどで決める所もありました。どちらの場所も、みなさん「行ってみたい」という話し声が聞こえたり、普段見られないような親子間で「譲れない戦い」が見られました。来年はみんなでバスハイクに行けるようになることを願っています。



「千葉県に関するクイズ」



「動画視聴中」

菊川保育園

●出来ること、を考えながら●

今年度のマタニティ講座、地域活動は一日一組、地域活動は戸外限定でしたが、合わせて18組の参加がありました。例年通りのポスター掲示だけでなく、ホームページにQRコードを掲載し、メールで保育参加の申し込みが出来るようにしたところ、盛況でした。「近隣の児童館はまだ予約制のところが多く、同じ年の子どもと知り合う機会が無かった。どんな遊びをしたら良いか分からなかったが、芝生の外遊びは初めてで新鮮でした。」と感想をいただきました。

地域の方の中には、入園申し込みの前に色々な園を見学したい、子育ての悩みを誰かに相談したい、と感じてもスムーズにはいかない状況があることがわかり、改めて保育園が担う役割の大切さを感じます。

また、園児クリスマス会は昨年同様、4、5歳児以外は平日夕方に行いました。乳児クラスは特に少人数で行えたことで、日頃顔を合わせる場面の少なかった保護者同士の交流にもなり、子どもたちもゆったりとした時間を過ごすことができました。コロナ禍で出来ることを考える中、より良い方向へ取り組みが見直されることもあります。

これからも、ともに育つ保育園として、園内外で「一緒に子育てしていきたいましょ」と声を掛け合える存在でいたいと思います。



「短冊に願いを込めて」



「マタニティ講座」

富士見保育園

●クリスマスに向けて●

0歳児クラスでは、「※アドベント」の週ごとに担当保育者と一緒にオーナメント作りをしたり、みんなで讃美歌を歌ったりしてクリスマスを楽しみに待ちました。

第一アドベントの週には、手形スタンプを楽しみ、できた手形をトナカイのツノに見立てて、事前に撮ったお顔の写真につけました。一つひとつ個性の感じるトナカイができ、とても魅力的でした。

第二アドベントの週では、画用紙で作ったツリーにシールを貼って、色とりどりに飾りました。指先を使って一生懸命頑張って貼っている子、シール台紙から自分ではがすことができ次々に貼っていく子など様々な姿が見られ、子どもたちの成長を感じることができました。



「シールべたべた楽しいな」

そして毎週の製作の前に、「※クラランツ」に火を灯し、「おほしがる」をみんなで集まって歌っているのですが、第三アドベントでは、ペットボトルに鈴を入れて作ったものも用意すると、手に持って大喜びの子どもたち。鈴の音が響き渡って、素敵なおひらきとなりました。つくし組の子どもたちと、製作や讃美歌などを通してクリスマスを楽しみにできたと嬉しく思います。今年も皆さんにとって幸せなクリスマスとなりますように祈っています。



「作ったオーナメント」

※アドベント（イエス・キリストの降誕を待ち望む期間のこと。待降節。）
 ※クラランツ（セイヨウヒラギなどの葉を環状にまとめたクリスマスの飾り。リース。）

こひつじ保育園

●親子で楽しい時間を過ごそう●

今年度の地域活動は人数や活動時間を最小限にして計画し、7月より『身体計測・親子交流会』を毎月第1木曜日と第4木曜日に実施しています。

健診以外でなかなか測る機会のない身長体重を測り、記録カードをお渡しして毎月の成長を数字として見て楽しんでいたり、お友達が好きなお遊びを楽しんでもらいながら、保護者同士の交流の場を設け、小児科の話、離乳食の話、保育園活動の話など、子育て中は知りたい事がたくさんあり、話題が尽きず時間が足りない位に話盛り上がりしています。また、遊具の選び方や夜泣き、何でも口に入れてしまうので困っているという保育者への育児相談もあります。

毎月、保護者同士のコミュニケーションを図れることを楽しみに来て下さる方、保育園の様子を知りたい方など利用の理由は様々ですが、家庭保育の保護者の方が保育園という場所、共通の話題で思いを語りあったり、子ども達の成長を喜んでもらえる場を提供できることは保育園にとっても活動して良かったと実感を得られています。これからも子ども、保護者にとって居心地の良い場を提供できるように利用者のニーズを汲み取りながら子育て支援が行えるよう活動を続けていきたいと思っています。



法人本部からの報告

◇理事会開催報告

令和3年10月28日に、令和3年度第4回理事会をリモートで開催し、左記の議案すべてについて決議を受け承認されました。

議案第20号 令和3年度菊川保育園拠点区分資金収支補正予算（補正第1号）
 議案第21号 令和3年度富士見保育園拠点区分資金収支補正予算（補正第1号）
 議案第22号 令和3年度こひつじ保育園拠点区分資金収支補正予算（補正第1号）
 議案第23号 富士見保育園園舎建替え設計・監理業務委託に係る事業者の決定について

議案第24号 富士見保育園建替え委員会の設置について
 議案第25号 社会福祉法人ベタニヤホーム就業規程の一部改正について
 議案第26号 社会福祉法人ベタニヤホーム再雇用職員就業規程の一部改正について
 議案第27号 社会福祉法人ベタニヤホーム有期契約職員就業規程の一部改正について

議案第28号 社会福祉法人ベタニヤホーム賃金規程の一部改正について
 議案第29号 令和3年度第3回評議員会の招集について

◇評議員会開催報告

令和3年11月8日に、令和3年度第3回評議員会をリモートで開催し、左記の議案について決議を受け承認されました。左記のほか理事会で決議のあった議案についても報告を行いました。

議案第7号 令和3年度菊川保育園拠点区分資金収支補正予算（補正第1号）
 議案第8号 令和3年度富士見保育園拠点区分資金収支補正予算（補正第1号）
 議案第9号 令和3年度こひつじ保育園拠点区分資金収支補正予算（補正第1号）

◇富士見保育園園舎建替え設計・監理業務委託業者の決定について

去る10月22日に4社の参加を得て指名型プロポーザルを行い、プロポーザル選定委員会による厳正な審査を経て10月28日の法人理事会において、有限会社ロード・プロモーション 慶総合計画一級建築士事務所に設計・監理業務を委託することが決定されました。

現在、基本設計について、当該設計・監理委託業者と富士見保育園職員、法人役員で打合せを重ね、江戸川区との協議、手続きを進めているところです。

「ご協力ありがとうございました」

〈令和3年10月～令和3年12月まで〉（敬称略）

●ご寄附

〈母子生活支援施設〉 UBSグループ Xiaojun（木製玩具キッチン）、新崎由香（木製玩具の汽車）、花岡恵梨子（木製玩具型はめ）、UBSグループ（コアラのメモ帳・ミニセロテープ・水筒・地球儀）、花王株式会社（ハンドソープ・消毒2種類・ボディソープ）、イケア・ジャパン株式会社（椅子・オムツ替えベッド・お菓子等）、株式会社わかもす「パン工房王様のかくれ家」（弁当・パン）、こひつじ保育園一時保育利用者（紙おむつ・ベビーサークル）、文花こども食堂さんりんしゃ（食器類）、田山かほる（スリッパ・食器・調理器具等）、特定非営利活動法人ソシオキユアアンドケアサポート（化粧品・石鹸等）、一般社団法人バンクフォースマイルズ（化粧品、ドミノ・ピザ菊川店（ピザ）、合同会社日吉屋（金3万円）、丸山富美江（金2万円）、匿名（お米）

〈菊川保育園〉 駒宮のり子（刺子ペストリー）、菊川印刷（紙）、亀太米店（稲穂）、佐藤安子（クリスマス装飾品）、花やみつばち（クリスマスアレンジメント）、在園児祖父（簡易テーブル）、在園児祖父（PEエプロン）箱、増地良枝（紙袋）

〈富士見保育園〉 桑原裕子、桑原佳子（オムツ・上履き）、川上真美子（上履き）、萩原彩（製作紙） 以上いずれも園児保護者、江戸川区役所（マスク・使い捨て手袋）

〈こひつじ保育園〉 園児保護者（洋服）

〈法人本部〉 大角祐介（金100万円）、日本福音ルーテル教会東教区女性会（金2万円）、日本福音ルーテル東京教会（金10万円）

●地域公益活動（パントリー）協力団体

一般社団法人全国食支援活動協力会（食支援）、認定特定非営利活動法人セカンドハーベスト・ジャパン（食品他）、株式会社千葉ピーナッツ（落花生、ポッパサツポロフード&ピバレッジ株式会社（食品）、公益財団法人キューピーみらいたまご財団（パスタソース他）、成田久男（お米）

編集後記

2021年もあっという間に終わったように思います。振り返ってみると、2020年はコロナ一色でしたが、2021年は世界全体がオリンピックやパリオリンピックに感動し、国内でも様々な社会経済活動が進むようになりました。街中も賑やかに、家族や友人の笑顔が増えた1年だったのでないでしょうか。まだまだコロナ禍の不安が拭い去れない状態ではありますが、皆さんの笑顔があふれ、平和に暮らせる2022年であることを祈っています。